

はじめに
 新年度を迎えました。愛知県埋蔵文化財センターでは、本年度も様々な事業を計画しております。

まず発掘調査ですが、昨年度から続く設楽ダム事業に伴う調査の他、下図に示す地点で予定しております。調査成果や、現地説明会の開催情報は、私どものホームページなどで紹介してまいります。

普及・公開事業も多数計画しております。以下に各事業を紹介しますが、このうち会場が明記されていないものは、全て愛知県埋蔵文化財調査センターにおいて開催となります。

まず春には【春の埋蔵文化財展】を開催します。「やとみ新発見展！2020」と題しまして、内容は令和元年度の調査で出土した遺物の速報展となります。次に、好評をいただいております【連続歴史講座】ですが、昨年度までは秋に開催しておりましたが、本年度は5月～6月に、「建物の考古学」をテーマに開催します。

夏は、【考古学体験とバックヤードツアー】を計画しております。子供向けのイベントで夏休み中の7月29日に開催となります。なお、

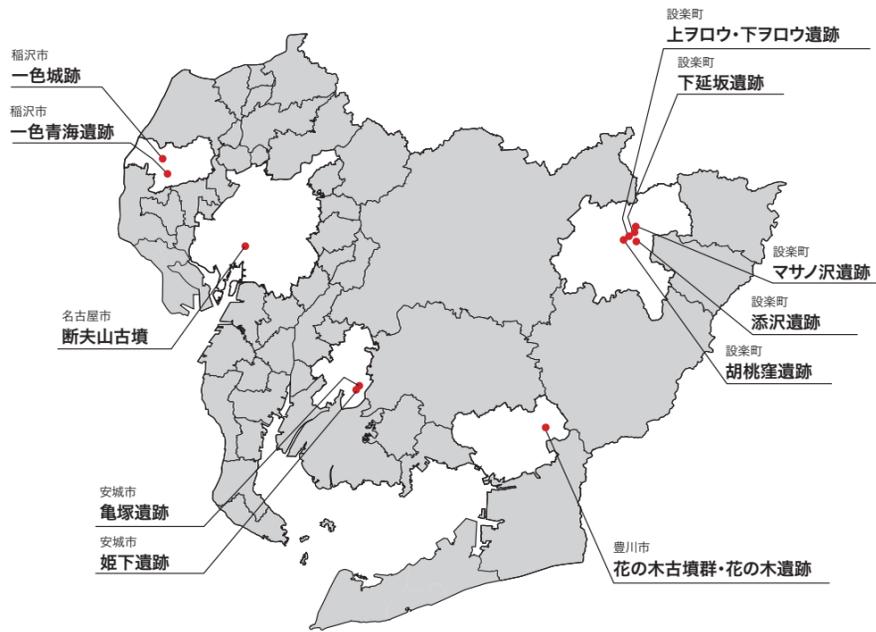
各遺跡の調査成果を現地で紹介する【地元説明会】も、この頃から順次開催する予定です。

秋から冬にかけては、愛知県陶磁美術館を会場として【秋の埋蔵文化財展】を開催します。YAYOI・モダンデザイン・ニッポンの美、ここに始まる」と題しました弥生時代の土器や木製品のデザインに着目した展示で、期間は10月10日(土)から12月13日(日)となります。なお、期間中の12月5・6日(土・日)には、やはり愛知県陶磁美術館を会場として【考古学セミナー「あいちの考古学2020」】を開催します。愛知県内を中心とした考古学に関わる人たちが集まり、それぞれの最新情報をお知らせするイベントで、同時に展示に関連した弥生時代のデザインをテーマとしたシンポジウムも計画しております。

この他に、年度末には設楽地区の発掘調査現場を会場とする【発掘体験】などの体験型イベントも予定しております。

以上の様に、当センターでは本年度も積極的な情報発信に努めます。皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

令和2年度の調査予定遺跡



埋文桜ニュース

発行日：2020年4月1日
 発行者：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
 愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
 電話：0567-67-4163
 ファックス：0567-67-3054
 ホームページ：http://www.maibun.com/
 メールアドレス：doki@maibun.com

連続歴史講座 今年も4回開催！

建物の考古学

最新の発掘調査成果を中心に「建物」に焦点をあてた講座

2020考古学の祭典

考古学セミナー

2020.12.5(土) 6(日)
 愛知県陶磁美術館にて開催！

令和2年度 発掘調査成果報告会

新設楽 発見伝7

令和13年3月開催予定！

春の特別公開 2020 収蔵庫に眠る逸品たち

・古瀬戸四耳壺
 惣作・鐘場遺跡(瀬戸市)
 窯跡が集中する瀬戸市赤津地区にある中世集落遺跡の土坑から出土した灰釉四耳壺。13世紀代の古瀬戸前期に属するもので、ほぼ完全な形で出土しています。



・須恵器脚付壺
 志賀公園遺跡(名古屋市)
 古墳時代に愛知県で須恵器生産が始まった頃の初期の須恵器壺。肩の部分に穴が穿たれていますが、このような穿孔は全国的にもほとんど例がありません。なぜ、こんなところに穴を開けたのでしょうか？

・瀬戸・美濃窯産陶器皿
 名古屋城三の丸遺跡(名古屋市)
 名古屋城三の丸の武家屋敷地から出土した江戸時代初期の陶器皿。透明な長石釉を掛けた後、鉄絵で「南蛮人」を描いたもので、江戸初期の「髭を生やしたユーモラスな南蛮人」の意匠が特徴的です。



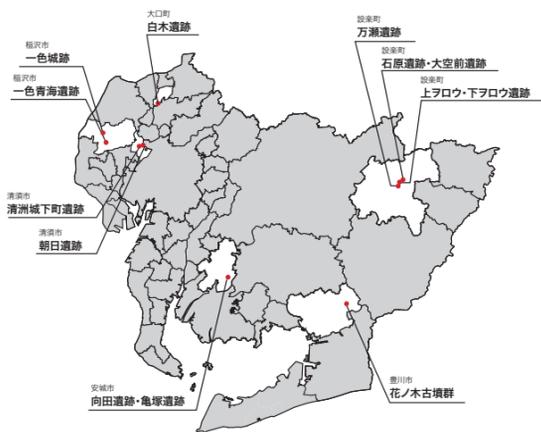
・弥生土器広口壺
 土田遺跡(清須市)
 方形周溝墓から出土したパレススタイルと呼ばれる赤彩土器。肩部や口縁部に列点文、直線文、刺突文などを施した文様帯を持つ尾張地域独特の華麗な壺です。

令和2年度 イベント案内		どなたでもお楽しみできます！	大人の方を対象としています！
4	1(水) リニューアル	春の埋蔵文化財展『やとみ新発見展(しんはっけんでん)！2020』 & 春の特別公開 ☆昨年度の発掘調査成果について、県内で今年度最初に展示解説を行います。また、特別にセレクトした逸品の遺物を特別公開します！	
5	16(土) 30(土)	連続歴史講座『建物の考古学』全4回 講座：予約不要・参加費無料 ☆設楽地域などの最新の発掘調査成果を踏まえ、縄文時代から古代中世に至るまでの「建物」について、専門の講師が解説します。 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター 2階研修室 時間：講座・午前10時30分～12時	
6	13(土) 27(土)	① 5月16日(土)「建物の変遷と屋敷の成立」 鈴木正貴 ② 5月30日(土)「弥生時代の建物と建築材」 樋上 昇 ③ 6月13日(土)「礎石建物-古代寺院を中心に-」 河嶋優輝 ④ 6月27日(土)「はじまりのムラ-設楽町滝瀬遺跡-」 早野浩二	
7	29(水)	センター公開事業『子ども向け バックヤードツアーと考古学体験』要予約・参加費無料 ☆夏休みの子供向けバックヤードツアーと考古学の体験イベントです。これらを通じて、当センターの事業を紹介します。 ○開催日時：7月29日(水) == 詳細が決定次第 HPにてお知らせします。	
8	23(日)	いちい信金 スポーツセンター **いちい信金スポーツセンター 一宮総合運動場が主催します。いちい信金スポーツセンター 一宮総合運動場は愛知県教育・スポーツ振興財団の管理施設です。 一宮総合運動場主催事業『考古学体験』参加費無料 ○開催日時：8月23日(日) 午後1時30分から3時30分	
9	19(土) 20(日)	愛知県旭高原少年自然の家 **愛知県旭高原少年自然の家が主催します。愛知県旭高原少年自然の家は、愛知県教育・スポーツ振興財団の管理施設です。 旭高原少年自然の家主催事業『レッツ！発掘体験と温泉』要予約 受付開始予定8月予定 ○開催時期：9月19・20日 ○発掘体験遺跡：東三河地域を予定 == 詳細は旭高原少年自然の家のHPをご覧ください。	
10	10(土)	秋の埋蔵文化財展「YAYOI・モダンデザイン-ニッポンの美、ここに始まる-」 愛知県陶磁美術館と共催！あいち朝日遺跡ミュージアム開設にあわせて、弥生時代のデザインに着目した展示会を開催！ ☆記念対談や展示開設、ワークショップ(「弥生ファッションショー」、「パレススタイル土器作り」)など関連企画をたくさん用意しています！ ○開催日時：10月10日(土)から12月13日(日) 9:30-16:30(ただし入場は16:00まで) ○会場：愛知県陶磁美術館 ☆関連事業などの詳細は、ホームページに掲載いたします。ぜひご覧ください！	
12	5(土) 6(日) 13(日)	2020年度『考古学セミナーあいちの考古学2020』 予約不要・参加費無料 愛知県内と近隣の情報を手に入れることができるビックイベント！ 日時：12月5日(土)・6日(日) 会場：愛知県陶磁美術館 本館講堂・講堂前ホール == 詳細が決定次第 HPにてお知らせします。	
1		歴史講座「三河の遺跡」 予約不要・参加費無料 ☆岡崎城や三河地域の遺跡の発掘調査成果について報告します。 会場：愛知県青年の家(愛知県岡崎市美合町並松1-2) 開催日：令和3年2月予定 == 詳細が決定次第 HPにてお知らせします。	
3	上旬	設楽ダム関連発掘調査成果報告会『新設楽発見伝7』 予約不要・参加費無料 ☆令和2年度の設楽地区の発掘調査成果の報告会です。 == 詳細が決定次第 HPにてお知らせします。	

令和元年度の発掘調査成果概要

当センターでは令和元年度に、尾張地域5遺跡、三河地域7遺跡の合計12箇所を調査しました。このうち10遺跡について調査成果の概要を紹介します。

令和元年度発掘調査遺跡位置図



縄文時代晩期から弥生時代前期の包含層を検出！

石原遺跡

(北設楽郡設楽町川向)

石原遺跡は、豊川上流の境川右岸に立地します。石原遺跡とその周辺では、主に境川右岸に発達した河岸段丘および沖積地からなる平坦面や緩斜面が分布しており、やや開けた谷地形になります。

令和元年度調査区のC区では、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての良好な遺物包含層が検出され、そこから煤の付着した土器片などが大量に出土しました。また、縄文時代晩期後葉以降の配石墓も検出されました。



遺物包含層



配石墓

縄文時代の遺構群と江戸時代の遺構群を検出！

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡

(北設楽郡設楽町川向)

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡は境川右岸の河岸段丘上から山地へ上がる緩斜面に立地します。

令和元年度の発掘調査では、江戸時代後半の屋敷地とそれに伴う建物跡、墓群などが検出されました。墓群のうち、2ヶ所からは広東碗や煙管が出土しています。

縄文時代の遺構は、縄文時代晩期を中心とした方形遺構群が検出されました。そのうちの1基からは石囲炉も検出されました。



縄文時代の竪穴遺構



江戸時代の墓壇群

縄文時代早期と中近世の建物跡を検出！

万瀬遺跡

(北設楽郡設楽町川向)

万瀬遺跡は境川右岸の緩斜面上に立地します。令和元年度の発掘調査は平成26年度の調査区の北方から西方にかけて行われました。

今回の発掘調査では縄文時代草創期の尖頭器から鎌倉時代の山茶碗、江戸時代の陶器や銅銭まで幅広い時期の遺物が出土し、当地が長く使われていたことが分かりました。

遺構では、縄文時代早期の竪穴建物跡5基が重複している様子が確認できたほか、中近世に属する10棟もの掘立柱建物跡が検出され、江戸時代の土坑墓や井戸も見つかりました。



竪穴建物跡



掘立柱建物跡

戦国時代城館の堀を発見！

一色城跡

(稲沢市西島本町)

一色城跡は、尾張平野北西部の沖積地低地に立地します。遺跡の東には三宅川、西には日光川が流れています。

令和元年度の発掘調査では、古墳時代前期の溝や掘立柱建物跡、飛鳥時代～奈良時代の溝や竪穴建物跡、掘立柱建物跡、室町時代～江戸時代の区画状の溝群や一色城の堀が検出されました。

主な出土遺物は、古墳時代のS字状口縁台付甕や高杯、飛鳥・奈良時代の須恵器や土師器甕、室町時代～江戸時代の漆椀などです。



一色城東堀



土師器甕

弥生時代中期の大溝・旧河道を検出！

一色青海遺跡

(稲沢市一色青海町)

一色青海遺跡は、三宅川と日光川に挟まれた沖積低地の自然堤防上に立地します。これまでの調査では、弥生時代中期後半の集落と墓域が確認され、昨年度の調査では旧河道が検出されています。

令和元年度の調査では、鎌倉時代～室町時代の土坑群、弥生時代中期後半の大溝と旧河道などが検出されました。さらに、大溝の最終的な埋没の状況も明らかとなりました。

主な出土遺物として、土器は完形の細頸壺、木製品では組合せ鋸、板材などがあります。



弥生時代旧河道



細頸壺

安土・桃山時代の清洲城の堀を検出！

清洲城下町遺跡

(清須市清須)

清洲城下町遺跡は五条川沿いの沖積低地に広がる古代～近世の遺跡で、安土・桃山時代の城下町が中心です。令和元年度は、清洲橋の北西にある窪地と清洲橋北詰の橋梁下を発掘調査しました。

清洲橋の北西にある窪地からは、幅約10m、深さ約3mの大溝が検出され、その中から完形の土師器皿などが出土しました。また、清洲橋北詰の橋梁下では、旧河道や柱穴、数十枚の土師器皿の集積も検出されました。



土師器の出土

弥生土器の破片が出土

朝日遺跡

(清須市西中長堀地内)

朝日遺跡は五条川沿いの沖積微高地に立地する遺跡で、これまでの調査で大規模な弥生時代の集落跡であることが分かっています。

令和元年度の発掘調査は、国指定史跡貝殿山貝塚の西方で行われた小規模なもので、複数の土器の破片が出土しました。弥生時代中期に属する土器片が出土しました。



朝日遺跡令和元年度調査区

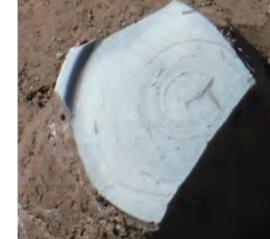
「人」刻書須恵器再び出土！

白木遺跡

(丹羽郡大口町豊田)

白木遺跡は五条川左岸の自然堤防の縁辺に位置し、過去の調査では古墳時代の竪穴建物跡などがみつかりました。

令和元年度の調査では、土師器、須恵器、土錘、鉄製品など弥生時代から平安時代にかけての遺物が出土し、遺構としては竈を敷設する奈良時代の竪穴建物跡や土坑などが見つかりました。注目されるのは、今回の発掘調査で新たに出土した「人」刻書須恵器です。白木遺跡では同じ字を刻書した須恵器が過去に2点出土しており、これで3例目となりました。



「人」刻書須恵器

古墳時代の河道から木製品！

亀塚遺跡

(安城市東町)

向田遺跡

(安城市桜井町)

亀塚遺跡・向田遺跡は、碧海台地の東縁部、矢作川右岸の後背湿地に位置しています。亀塚遺跡は、安城市が昭和52年度に行った調査で出土した人面文土器(平成28年度に重要文化財に指定)がよく知られています。令和元年度の発掘調査では古墳時代前期の河道跡から、壺、甕、高坏などの土器、部材や板材、赤彩された桶などの木製品が多く出土し、竪穴建物跡から銅鏃も見つかりました。一方、向田遺跡では遺物を多く含む層(遺物包含層)や炭化物を多く含む土坑を検出しました。



赤彩のある「盾」